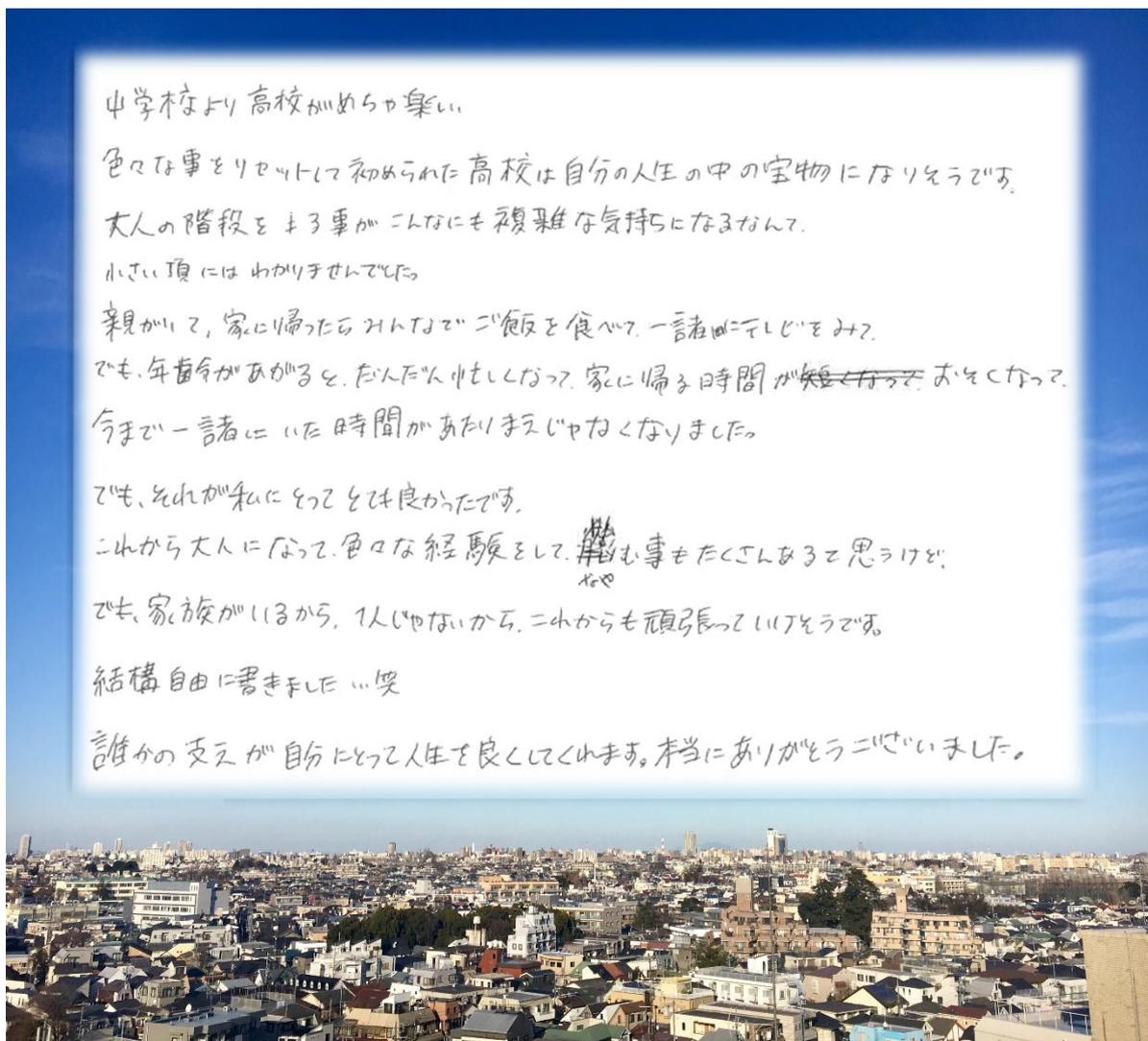




あすのばでは、2017年春に入学・新生活を迎えた子どもたち2,257人へ「入学・新生活応援給付金」をお届けしました。

この給付金は27,000人をこえる人たちの温かいご協力で成り立ち、子どもたちのことを想っている人たちが「ここにいるよ。」という気持ちもあわせてお贈りしました。



このたび、私たちは子どもたちが「良かった」と感じられる対策をさらに前へとすすめていくため、子どもたちと保護者に生活の状況やどのようなことにお困りなのかなどをおうかがいする大規模アンケートをはじめて実施しました。

「給付金ありがとうございました！」

それぞれの新生活を過ごす1,500人以上の子どもたちとお母さん・お父さんから回答が届きました。「子どもの貧困対策法」が成立して5年を迎えようとする、そして、また新しい春を迎えようとするなか、対策のネクストステップへすすむためには子どもたちの生活や声に今一度、本気で向き合うことが必要です—。

## 子どもの生活と声 1500 人アンケートの概要

- (1) アンケート対象 2016 年度に「あすのば入学・新生活応援給付金」を届けた住民税非課税世帯・生活保護世帯・社会的養護のもとで暮らした経験のある、子ども本人（高校・大学 1 年世代）と保護者（社会的養護を除いた小学～大学 1 年世代）
- (2) 対象者数 子ども票 1425 人、保護者票 1770 人（世帯）、合計 3195 票
- (3) アンケート方法 郵送法
- (4) 有効回答数 子ども票 547 票（有効回答率 38.4%）  
保護者票 959 票（有効回答率 54.1%）  
合計 1506 票（有効回答率 47.1%）
- (5) 調査期間 2017 年 10 月 31 日から 12 月 18 日まで
- (6) 協力者の概況

### <保護者（959 人・世帯）>

- ・ 母親 853 人（88.9%）、父親 61 人（6.4%）、祖父母 30 人（3.1%）、おじ・おば 5 人（0.5%）、その他・無回答が 10 人（1.0%）。平均年齢は 45 歳。
- ・ 世帯人数は平均 3.3 人で、中央値は 3 人。最小値は 2 人、最大値は 9 人。
- ・ 第一子の出産年齢は平均 26 歳で、20 歳未満で出産した世帯は 63 世帯（6.6%）、20 歳～24 歳は 294 世帯（30.7%）、25 歳～29 歳は 303 世帯（31.6%）、30 歳～34 歳は 190 世帯（19.8%）、35 歳以上は 69 世帯（7.2%）、無回答 40 世帯（4.1%）。
- ・ お住まいは北海道・東北地方 204 人（21.3%）、関東地方 174 人（18.1%）、中部地方 160 人（16.7%）、近畿地方 67 人（7.0%）、中国・四国地方 138 人（14.4%）、九州・沖縄地方 205 人（21.4%）、無回答 11 人（1.1%）。

（地方内訳）北海道・東北地方：北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東地方：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

中部地方：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

近畿地方：三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国・四国地方：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

九州・沖縄地方：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

- ・ 子どもの暮らしてきた世帯の状況は、母子家庭 761 世帯（79.4%）、父子家庭 29 世帯（3.0%）、両親以外 22 世帯（2.3%）、両親がいる 107 世帯（11.2%）無効・無回答 40 世帯（4.1%）。生活保護世帯は 179 世帯（18.7%、無回答の割合含む）
- ・ 保護者が子どもの頃に暮らしてきた家庭の状況は、母子家庭 13.1%、父子家庭 3.8%、両親はいなかった 1.4%、両親がいた 78.4%、無効・無回答 3.3%。

### <子ども（547 人）>

- ・ 高 1 世代 292 人（53.4%）、大 1 世代 247 人（45.2%）、無回答 8 人（1.5 人）
- ・ 性別は男性 255 人（46.6%）、女性 286 人（52.3%）、無回答 6 人（1.1%）
- ・ 現在、保護者と同居している人は 432 人（79.0%）、別居は 111 人（20.3%）

- ・暮らしてきた世帯の状況は、母子家庭 423 人 (77.3%)、父子家庭 23 人 (4.2%)、両親以外 16 人 (2.9%)、両親がいる 65 人 (11.9%)、無効・無回答 20 人 (3.7%)
- ・社会的養護経験者は 76 人 (13.9%、無回答の割合含む)。

#### (7) 留意点および集計方法

- ・アンケートは保護者票を「子どもの生活 1800 世帯アンケート」、子ども票を「子どもの声 1400 人アンケート」の名称で実施し、有効回答数に基づき「子どもの生活と声 1500 人アンケート」として報告書にまとめている。
- ・中間報告における集計は基本的に無効回答、無回答も含む集計・割合である。  
 <無効回答の例：単一回答の質問に複数回答した場合など>
- ・保護者票の世帯収入および子ども票のアルバイトは、協力者が手当 1 回分を 1 ヶ月あたりと捉えて記入した、1 日の労働時間を週の労働時間と捉えて記入したと考えられるものなどは一部修正し集計をした。  
 <修正の例：児童手当 1 回 10,000 円→1 回 40,000 円 (10,000 円×4 ヶ月分) >  
 <修正の例：1 週間に 5 日、1 日 40 時間→1 週間に 5 日、1 日 8 時間>
- ・世帯人数は、最低 2 人として捉えて、2 人未満の記入は 2 人として集計をした。  
 <保護者票 質問 9：あなたと給付金を受け取った一番上のお子さん含めて 人>
- ・端数処理の関係上、割合の合計が 100%に一致しないことがある。
- ・中間報告における数値は速報値のため、今後公表される数値とは異なる場合がある。
- ・最終報告書は 2018 年 5 月または 6 月に公表予定としている。

#### (8) 「あすのば入学・新生活応援給付金」概要

- ・2016 年度に実施した「あすのば入学・新生活応援給付金」には 3,263 人の申込みがあり、うち該当は 3,050 人、非該当は 213 人だった。
- ・該当の 3,050 人から採用した 2,257 人の世代内訳は小学生 327 人、中学生 486 人、高校生 755 人、大学生 689 人である。
- ・審査基準は、子どもの扶養人数や新生活の予定など含め、総合的により経済的に厳しい家庭と社会的養護退所予定者から採用している。従って、貧困状態にある家庭や若者を想定しているが、必ずしも貧困線以下の暮らしや各制度の定義とは一致しない。
- ・全国の対象者母数は約 60 万人と推計される。

参考：総務省統計局の人口推計（平成 30 年 1 月 22 日公表）

0 歳～19 歳 全人口 (21,656,000 人)

対象 4 学年 (4,331,200 人) ※0 歳～19 歳 全人口 ÷ 20 × 4

4,331,200 人 × 子どもの相対的貧困率 13.9% = 602,037 人

# 子どもの生活と声 1500 人アンケート結果（中間報告）

## 1 入学・新生活応援給付金について

### (1) 給付金がお役に立てた理由（給付金の機能 ①）

**保護者・子どもともに、返さなくてもいい、入学・新生活の前・直後にももらえることが多い**

給付金が「とても役に立った」「役に立った」割合は、保護者（98.5%）、子ども（98%）だった。その理由について、保護者は①入学・新生活の前・直後にももらえる（約40%）、②返さなくていい（約36%）、子どもは①返さなくていい（約48%）、②入学・新生活の前・直後にももらえる（約26%）の順で役に立った理由を回答している（単一回答）。

子どもは、保護者と比べて「使い道が限られていない（子ども9.1%、保護者5.5%）」、「成績不問や就職する人などにももらえる（子ども7.6%、保護者2.4%）」ことへの割合も高かった。「最低限の手続きで申し込める」は自由記述において感想があった。

このことから、就学援助の前倒し支給や、給付型奨学金は必要とする子どもたちの状況をくみとった包摂的な機能を持ち合わせる制度設計への期待も高いとも考えられる。

### 「すごく役に立った」、「役に立った」を選んだ人の理由（最もあてはまるもの1つ） （保護者）



項目	回答数	割合
返さなくていい	339	35.9%
成績不問や就職する人などにももらえる	23	2.4%
入学・新生活の前・直後にももらえる	379	40.1%
使い道が限られていない	52	5.5%
最低限の手続きで申し込める	30	3.2%
その他	118	12.5%
無回答	4	0.4%
総計	945	100.0%

項目	回答数	割合
返さなくていい	255	47.6%
成績不問や就職する人などにももらえる	41	7.6%
入学・新生活の前・直後にももらえる	139	25.9%
使い道が限られていない	49	9.1%
最低限の手続きで申し込める	11	2.1%
その他	40	7.5%
無回答	1	0.2%
総計	536	100.0%



## 給付金を受け取った保護者たちの声

給付金とても助かりました。

ありがとうございます。

入学(中学)では、制服や運動着、Yシャツなど、最初に準備しなければいけない物がたくさんあり、10万ちょっとかかりました。

でも、あの頃の給付金のおかげで、心配や不安、イライラなどせず、準備することができ、本当に感謝しております。

今回、給付金をとても有意義に使わせて頂き、ありがとうございます。プレゼントにも記入しましたが、学用品を新しくした際、「自分で選ぶ」事を大変楽しんでおりました。取心しながら、いつも値引き品やおさがりなどで済ませていたのが、本人もとてもうれしかったです。

子供にスマホを買う事が出来ました。

ありがとうございます。

高校受験、入学にかける支出が、多く不安な時期でした。

給付金のおかげで、入学をバカらしく感じるようになったと感じた。

入学 = 不安にならなくなった。

高校はすごく楽しいと子供が話している。

必要な物をそろえてあげられ良かったです。

## 給付金を受け取った保護者たちの声

中学校入学にかかるお金がたりなく、困っていたので給付金が  
受け取れたすかりました。

でも、入学してから、部活動などの、Tシャツとかウインドブレーカーなど  
買うのに、お金がいくらかからなくて、大変です。(人だけ買わないわけ  
には、いかないのよ。(ちなみに部活動はサッカーです。))

急な出費があると大変ですね。

「あすのば」の様

地元誌の記事で あすのばの様の活動を知り、  
まず思ったのが「うそでしょ？」でした。

保証人も返済も必要無し、信じられませんでした。  
そして、本当に支給され、どれだけありがたいか  
本当にありがとうございました。

NPO 法人が、やっている学習支援に行っていた息子のおかげで  
今回の給付金の事を知りました。

返済不要ということで、高校入学の費用に困っていたため、とても  
助かりました。

手続きが「簡単で」、とてもたすかりました。

ありがとう「さ」いました。

## 2、「貧」軸（経済的な状況について）

### (1) 回答いただいた世帯の収入と就労状況

**勤労月収 114,000 円、世帯の約 86%は年間 3,000,000 円未満で生活 九州・沖縄は約 91%**

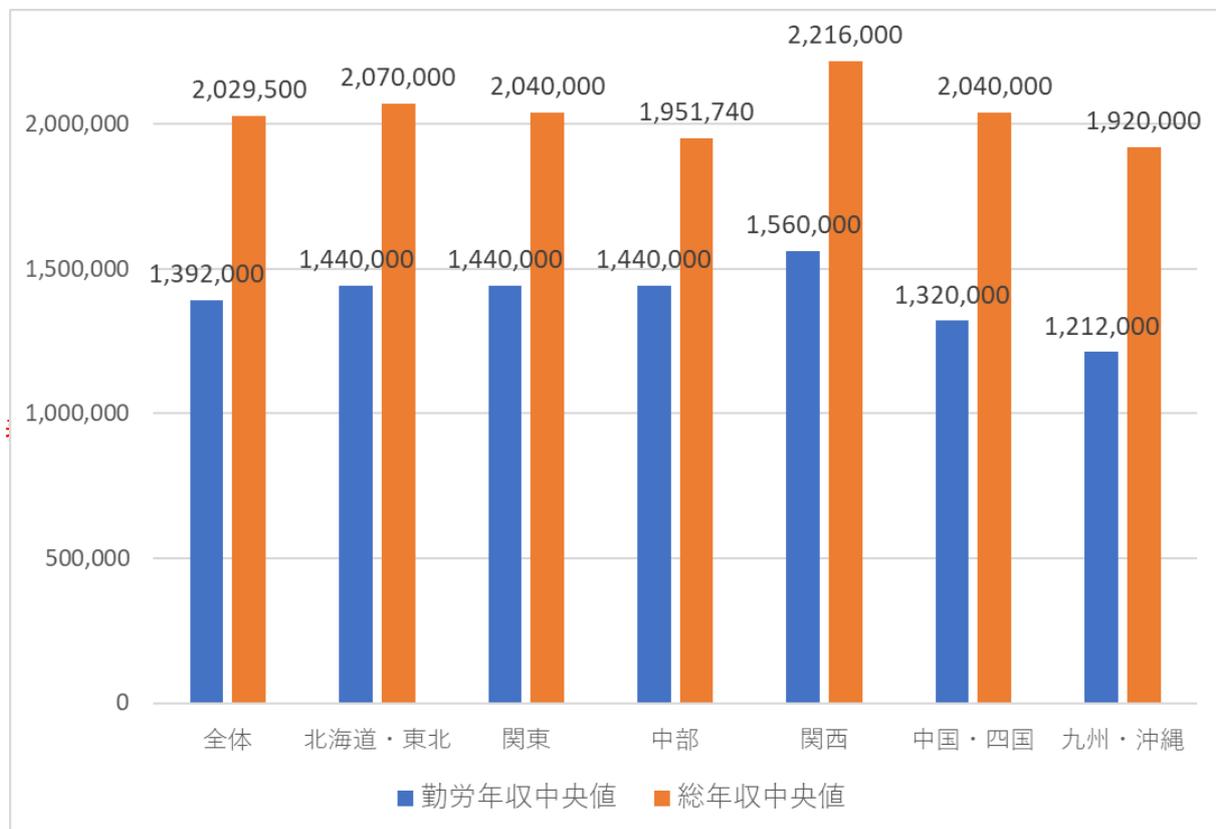
世帯の勤労年収中央値は手取りで 1,392,000 円、月の勤労月収中央値は手取りで 114,000 円だった。児童手当や児童扶養手当、生活保護など諸手当を含めた総年収中央値は 2,029,500 円だった。世帯の人数中央値は 3 人だったため、貧困線（2,110,000 円）以下の状態で生活している保護者や子どもたちの姿が改めて浮き彫りとなる。なお、総年収平均は 2,063,894 円で、「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査」における母子世帯の平均 3,480,000 円より低い結果となった。

総年収中央値の割合（n=890）について、200 万円未満は 435 世帯（約 49%）、200 万円代は 328 世帯（約 37%）、300 万円代は 87 世帯（約 10%）、400 万円以上は 40 世帯（約 5%）だった。九州・沖縄地方では 300 万円未満で暮らす世帯が約 91%（全国約 86%）と全国で一番高い状態だった。

就業率は約 74%で、非正規雇用で仕事をしている人の割合は約 53%（正規雇用は約 22%、その他は約 17%）だった。仕事のかげもちをしている人は約 20%で、週の平均労働時間が 45 時間以上の人は約 20%だった。「現在、働ける状態ではない」と回答した人について、その理由は「保護者の健康状態が良くない（約 71%）」、「家族で介護や世話が必要な状態の人がいる（約 9%）」、「子どもの健康状態が良くない（約 4%）」だった。

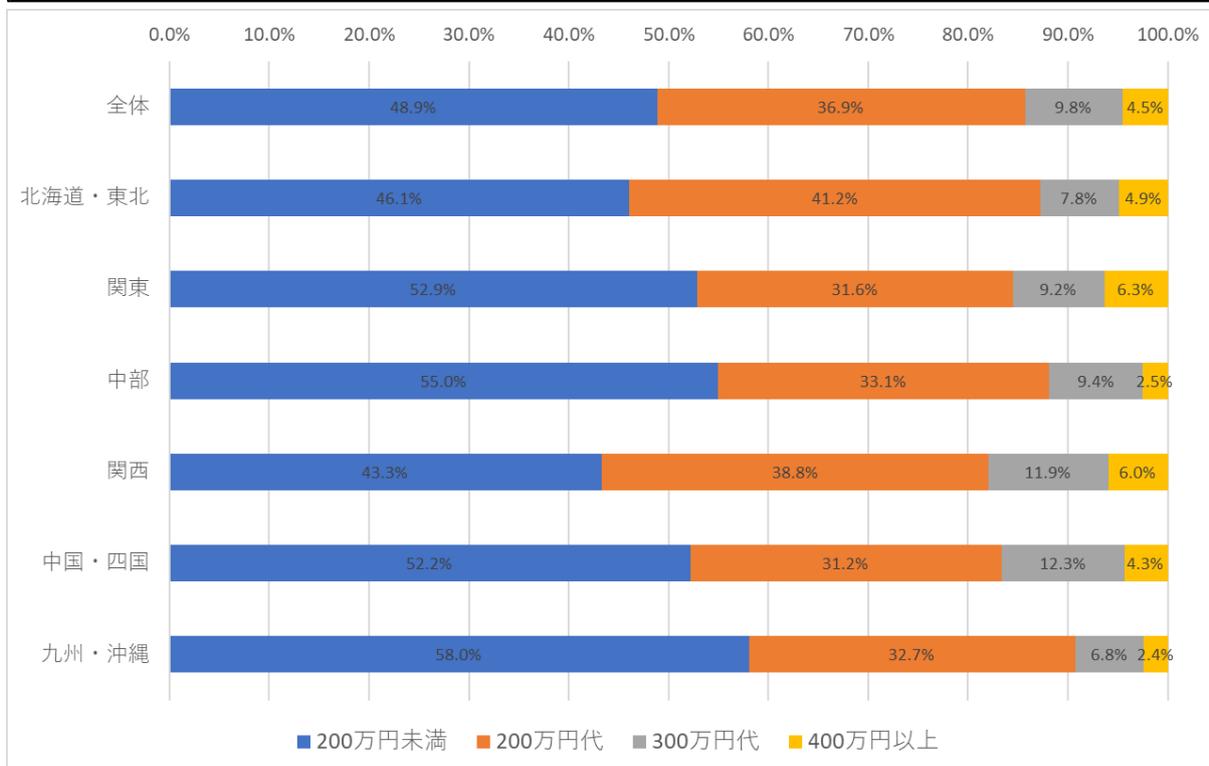
### 勤労年収と総年収の地方ごと集計（年収は中央値、最低賃金は平均値）

項目	全体	北海道・東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
勤労年収	1,392,000	1,440,000	1,440,000	1,440,000	1,560,000	1,320,000	1,212,000
総年収	2,029,500	2,070,000	2,040,000	1,951,740	2,216,000	2,040,000	1,920,000
最低賃金	848	755	862	802	829	760	744



## 総年収中央値の割合

総年収	全体	北海道・東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
200万円未満	48.9%	46.1%	52.9%	55.0%	43.3%	52.2%	58.0%
200万円代	36.9%	41.2%	31.6%	33.1%	38.8%	31.2%	32.7%
300万円代	9.8%	7.8%	9.2%	9.4%	11.9%	12.3%	6.8%
400万円以上	4.5%	4.9%	6.3%	2.5%	6.0%	4.3%	2.4%



## (2) 子どものアルバイトの状況とアルバイト代の使い道

**高1世代の3人に1人がアルバイトをはじめ、スマホ代や学校の費用、家庭の生活費にも  
大1世代の4人に3人がアルバイトを経験し、学校の費用や4.5人に1人は家庭の生活費にも**

高校1年世代（主に15歳または16歳）の約33%、大学1年生世代（主に18歳または19歳）の約75%がアルバイトの経験があると回答した。高1世代は週平均で約3日、1日あたり平均4.6時間の勤務をしている。大1世代は週平均で約4日、1日あたり平均5.2時間の勤務をしている。月々の平均アルバイト代は、高校1年世代が33,259円、大学1年世代が47,680円だった。

アルバイトの使い道について、高校1年世代は「スマートフォンや携帯代（約36%）」、「授業料や通学、昼食代、部活動など学校の費用（約33%）」、「家庭の生活費（約15%）」などで、大学1年世代は「授業料や通学、昼食代、部活動など学校の費用（約50%）」、「スマートフォンや携帯代（約32%）」、「家庭の生活費（約22%）」などだった（複数回答）。

### アルバイト代の使い道はどれですか（あてはまるものすべて）

世代	学校の費用	卒業後の費用	家庭の生活費	スマホ・携帯代	おこづかい	貯金	その他
高校生世代	32.6%	15.8%	14.7%	35.8%	66.3%	40.0%	7.4%
大学生世代	50.3%	22.2%	21.6%	31.9%	63.8%	40.5%	5.4%

### (3) いつぐらいから経済的に厳しい生活状況が続いているのか

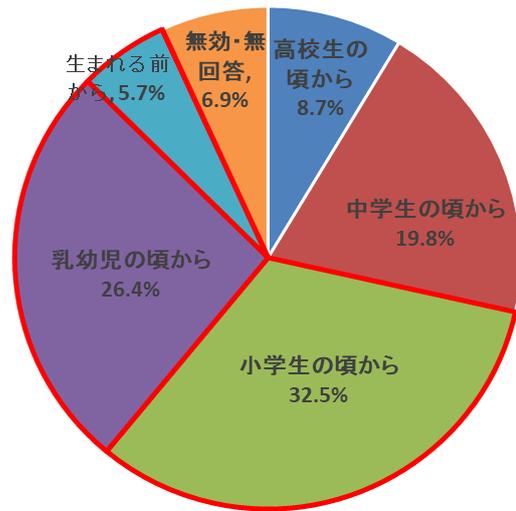
#### 全世帯の約 65%は、子どもが小学生の頃までに経済的に厳しい生活状況となっている状態

いつぐらいから経済的に厳しい生活状況が続いているのかについて、約 9%は子どもが高校生の頃から、約 20%は中学生の頃から、約 33%は小学生の頃から、約 26%は乳幼児の頃から、約 6%は生まれる前からと回答した（2人以上の場合は一番上の子ども。無効・無回答の割合含む）。

子ども票でも同様の質問をし、約 8%は高校生の頃から、約 24%は中学生の頃から、30%は小学生の頃から、約 13%は乳幼児の頃から、約 2%は生まれる前からと回答した（無効・無回答の割合含む）。いつぐらいから経済的に厳しい生活状況が続いているのか分からないは約 18%だった。

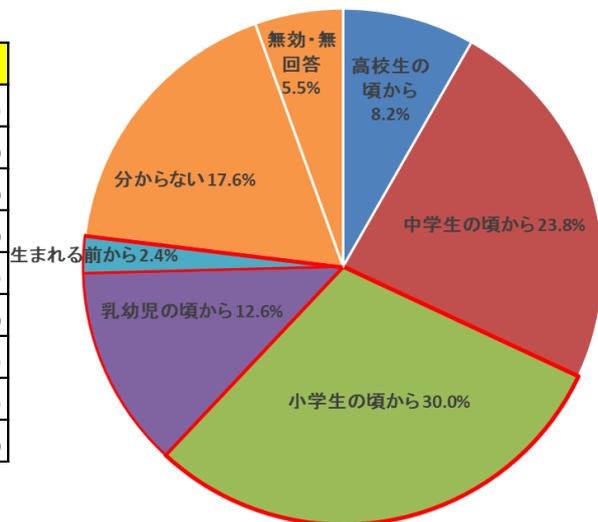
(保護者)

項目	回答数	割合
子どもが高校生の頃から	83	8.7%
子どもが中学生の頃から	190	19.8%
子どもが小学生の頃から	312	32.5%
子どもが乳幼児の頃から	253	26.4%
子どもが生まれる前から	55	5.7%
無効回答（複数回答）	2	0.2%
無回答	64	6.7%
総計	959	100.0%



(子ども)

項目	回答数	割合
高校生の頃から	45	8.2%
中学生の頃から	130	23.8%
小学生の頃から	164	30.0%
乳幼児の頃から	69	12.6%
生まれる前から	13	2.4%
分からない	96	17.6%
無効回答（複数回答）	5	0.9%
無回答	25	4.6%
総計	547	100.0%



### (3) 家庭の貯金状況

#### 全世帯の半数は貯金がない状態で、4世帯中3世帯は貯金が50万円未満の状況で暮らしている

家庭の貯金状況について、約 52%は貯金がない、約 10%は 10 万円未満、約 14%は約 10 万円～50 万円未満、約 50 万円～100 万円未満は 7%と回答した（無回答の割合 7%含む）。100 万円以上は約 10%だった。「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査」では、母子世帯の貯金について 50 万円未満が約 40%だったことと比較しても高い割合となっており、給付金を受け取った家庭に貯金の面でも経済的な余裕がない状態が明らかとなった。

給付金を受け取った家庭のペルソナイメージ —ある高校1年生、母子家庭の場合—



【お住まい】

北海道・東北地方

【家族の構成】

- 保護者（42歳、女性、パートタイム）
- 子ども（16歳、女性、高校1年生）
- 子ども（15歳、男性、中学3年生）

「給付金ありがとうございました。娘が小学校の時に離婚せざるを得なくなり、子ども2人を育ててきました。体調を崩して働けない時は貯金を切り崩して今まで何とか生活をしていましたが・・・」



【月の手取り】

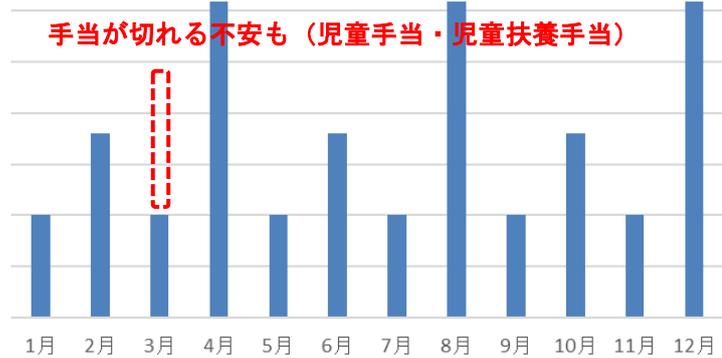
約 110,000 円

【手 当】

- ・ 児童手当 1回 40,000 円  
(10,000 円×1人×4ヶ月)  
2月・6月・10月に支給
- ・ 児童扶養手当 1回 209,120 円  
(52,280 円×4ヶ月)  
4月・8月・12月に支給

お金のかかる時期に収入が少ない！

手当が切れる不安も（児童手当・児童扶養手当）



総年収 2,029,500 円

（3人世帯の貧困線は2,110,000円）



【子ども（高1）のアルバイト】

- ・ 平均 週2~3日（レストラン）
- ・ 17時30分~22時00分（4時間30分）
- ・ バイト代はスマホや学校の費用、お母さんが大変な時の生活費に

アルバイト代

（平均）月 33,259 円

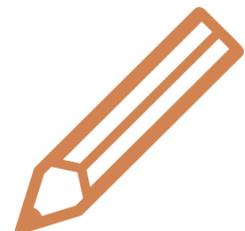


【貯金】

なし



急な出費に  
対応できない・・・



給付金を受け取った子どもたちの声

給付金をいただきありがとうございます。  
色々な助成金の申し込みをしましたが、  
どれも合格しませんでした。  
給付金をもらえて嬉しかったです。

たすけてと

言いたいとき

もある

父の仕事ができないため生活がギギギギです  
たすけてください

TEL

父のしゅうかい年金だけの生活です(月10万円)

### 3、「困」軸（困りごとについて）

#### (1) 今までに経済的な理由であきらめた経験

#### 約 69%の世帯が塾・習い事を経済的な理由であきらめた経験、幼少期からの困窮で高い割合

保護者にうかがった子どもが今までに経済的な理由であきらめた経験について、①塾・習い事（約 69%）、②海水浴やキャンプなどの体験（約 25%）、③お祝い（約 20%）の順で回答が多かった。「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」では小学生の約 46%、中学生の約 61%が塾に通っている。他にも部活動（約 14%）、進学・就職（約 12%）、病院への通院（約 10%）と、今の子どもたちの「あたりまえ」となりつつある塾・習い事や様々な経験が経済的な理由であきらめなければいけない状況にあることが明らかになった。

#### (保護者) 今までに子どもが経済的な理由であきらめた経験(あてはまるものすべて)

項目	進学・就職	部活動	遠足・野外活動 など学校行事	塾・習い事	制服・スーツ	教科書・参考書
高校生の頃から	13	6	1	41	6	4
中学生の頃から	21	26	6	122	16	11
小学生の頃から	36	41	5	224	30	30
乳幼児の頃から	29	43	19	187	22	33
生まれる前から	6	13	3	39	9	5
無効回答	1	1	0	1	1	0
無回答	2	0	1	11	1	0
総計	108	130	35	625	85	83
割合 (n=908)	11.9%	14.3%	3.9%	68.8%	9.4%	9.1%
項目	通学・通勤定期	病院への通院	お祝い	海水浴やキャン プなどの体験	その他	経済的な理由で あきらめた経験は ない
高校生の頃から	3	3	8	7	7	19
中学生の頃から	8	18	33	36	16	29
小学生の頃から	6	31	55	73	36	29
乳幼児の頃から	7	28	67	86	29	31
生まれる前から	5	4	19	24	13	4
無効回答	0	0	0	1	0	0
無回答	0	2	1	3	3	15
総計	29	86	183	230	104	127
割合 (n=908)	3.2%	9.5%	20.2%	25.3%	11.5%	14.0%

また、あきらめた経験について、子どもがいつぐらいから経済的に厳しい状況が続いているかで比較したところ、中学生の頃より前から厳しい状況にある世帯の「あきらめ具合」が高いことが浮き彫りとなった。子どもが乳幼児の頃から経済的に厳しい状況にある世帯は、4世帯に3世帯が塾や習い事をあきらめた経験がある結果となった。

項目	塾・習い事	割合	海水浴やキャン プなどの体験	割合	お祝い	割合
高校生の頃から	41	51.9%	7	8.9%	8	10.1%
中学生の頃から	122	65.9%	36	19.5%	33	17.8%
小学生の頃から	224	73.4%	73	23.9%	55	18.0%
乳幼児の頃から	187	74.8%	86	34.4%	67	26.8%
生まれる前から	39	72.2%	24	44.4%	19	35.2%

## 2人に1人は洋服や靴、おしゃれ用品をがまんし、5人に1人は勉強・進学への意欲が減った

子どもにうかがった経済的にあきらめた経験について、①洋服や靴、おしゃれ用品などをがまんした（52%）、②スマートフォンや携帯を持つのをがまんした（約30%）、③学習塾に通うことができなかった（約29%）、④スポーツや習いごとができなかった（約27%）、⑤おこづかいやお年玉がもらえなかった（27%）、⑥勉強に対する意欲や進学への意欲込みが減った（約21%）の順で回答が多かった。「そのようなことはとくにない」と回答したのは約17%で、いずれかに該当する割合は約83%だった。保護者と比べてより日常的なものへの「あきらめ具合」が高かった。

（子ども）過去に経済的な理由で次のようなことはありましたか（あてはまるものすべて）

項目	朝ご飯を食べなかった	学校でお弁当や昼食などではずかしい思いをした	夜ご飯をインスタント食品やファーストフードなどで済ませた	スポーツや習いごとなどができなかった	洋服や靴、おしゃれ用品などをがまんした	スマートフォンや携帯を持つのをがまんした
高校生の頃から	2	0	4	7	22	12
中学生の頃から	6	7	22	30	66	28
<b>小学生の頃から</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>32</b>	<b>55</b>	<b>100</b>	<b>51</b>
乳幼児の頃から	9	4	17	24	35	20
生まれる前から	2	0	2	4	7	6
分からない	3	2	9	10	19	22
無効回答	3	1	3	3	5	3
無回答	1	1	1	4	8	8
総計	40	28	90	137	262	150
<b>割合 (n=504)</b>	<b>7.9%</b>	<b>5.6%</b>	<b>17.9%</b>	<b>27.2%</b>	<b>52.0%</b>	<b>29.8%</b>
項目	おこづかいやお年玉がもらえなかった	クリスマスプレゼントやお誕生日祝いなどがもらえなかった	海水浴やキャンプなどの体験ができなかった	体調不良のときに病院へ行くことをためらった	勉強に対する意欲や進学への意欲込みが減った	希望した部活動をあきらめた
高校生の頃から	7	8	4	2	11	2
中学生の頃から	33	25	23	17	22	9
<b>小学生の頃から</b>	<b>54</b>	<b>30</b>	<b>36</b>	<b>18</b>	<b>40</b>	<b>18</b>
乳幼児の頃から	20	10	9	3	13	4
生まれる前から	3	2	3	0	4	2
分からない	14	6	7	6	10	4
無効回答	4	2	3	1	3	3
無回答	1	2	1	0	2	3
総計	136	85	86	47	105	45
<b>割合 (n=504)</b>	<b>27.0%</b>	<b>16.9%</b>	<b>17.1%</b>	<b>9.3%</b>	<b>20.8%</b>	<b>8.9%</b>
項目	修学旅行や合宿などに参加できなかった	学習塾に通うことができなかった	退学・転校した（しよと考えている）	家計を助けるために進路を変更した、またはあきらめた	弟や妹のために進路を変更した、またはあきらめた	その他
高校生の頃から	1	10	0	5	0	1
中学生の頃から	5	37	1	14	2	1
<b>小学生の頃から</b>	<b>6</b>	<b>60</b>	<b>6</b>	<b>21</b>	<b>2</b>	<b>4</b>
乳幼児の頃から	2	19	1	14	2	2
生まれる前から	0	5	0	1	0	0
分からない	2	9	3	7	<b>3</b>	0
無効回答	2	2	1	5	1	2
無回答	1	2	1	3	1	0
総計	19	144	13	70	11	10
<b>割合 (n=504)</b>	<b>3.8%</b>	<b>28.6%</b>	<b>2.6%</b>	<b>13.9%</b>	<b>2.2%</b>	<b>2.0%</b>

また、あきらめた経験について、いつぐらいから経済的に厳しい状況が続いているかで比較したところ、小学生の頃から厳しい状況が続いている子どもの「あきらめ具合」が高かった。

小学生の頃から厳しい状況にある子どもの洋服や靴、おしゃれ用品などをがまんした経験は全体の52%より約14ポイント高く、学習塾に通うことができなかった体験も全体の約29%より約11ポイント高かった。

項目	洋服や靴、おしゃれ用品などをがまんした	割合	スマートフォンや携帯を持つのをがまんした	割合	学習塾に通うことができなかった	割合
高校生の頃から	22	50.0%	12	27.3%	10	22.7%
中学生の頃から	66	54.1%	28	23.0%	37	30.3%
<b>小学生の頃から</b>	<b>100</b>	<b>65.8%</b>	<b>51</b>	<b>33.6%</b>	<b>60</b>	<b>39.5%</b>
乳幼児の頃から	35	51.5%	20	29.4%	19	27.9%
生まれる前から	7	53.8%	6	46.2%	5	38.5%
分からない	19	23.5%	22	27.2%	9	11.1%

## (2) 周りとの関係や居場所に対する意識

### 保護者と子どもの学校との関係は、厳しい状況が続く期間に連れて「悪い」の割合が高い

保護者と子どもなど周りとの関係について、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた回答の割合は、家庭・子ども（約93%）、子どもの学校（約88%）、過去含む職場（約73%）、地域・ご近所（約78%）、友人・知人（約86%）だった。

「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた回答の割合は、子どもの学校や過去含む職場、地域・ご近所との関係について、生まれる前や乳幼児の頃から厳しい状況が続く世帯の割合が他と比較して高かった。友人・知人との関係は、生まれる前や小学生の頃からが高かった。子どもの学校との関係は、厳しい状況が続く時期が幼くなるに連れて悪い割合が高くなっている。

### (保護者) 子どもなど周りとの関係

家庭・子ども	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	無効・無回答
良い・どちらかといえば良い	92.9%	92.8%	91.6%	94.9%	92.9%	92.7%	93.8%
悪い・どちらかといえば悪い	4.7%	3.6%	6.3%	4.5%	4.7%	5.5%	0.8%
無回答	2.4%	3.6%	2.1%	0.6%	2.4%	1.8%	5.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもの学校	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	無効・無回答
良い・どちらかといえば良い	88.4%	94.0%	89.5%	90.7%	86.6%	81.8%	65.6%
悪い・どちらかといえば悪い	7.1%	1.2%	5.8%	6.4%	9.9%	14.5%	26.6%
無回答	4.5%	4.8%	4.7%	2.9%	3.6%	3.6%	7.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場（過去含）	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	無効・無回答
良い・どちらかといえば良い	72.8%	80.7%	71.1%	75.6%	70.8%	63.6%	84.4%
悪い・どちらかといえば悪い	15.2%	6.0%	16.3%	14.4%	19.4%	21.8%	3.1%
無回答	12.0%	13.3%	12.6%	9.9%	9.9%	14.5%	12.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地域・ご近所	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	無効・無回答
良い・どちらかといえば良い	77.8%	83.1%	77.9%	81.7%	75.5%	65.5%	60.9%
悪い・どちらかといえば悪い	17.2%	12.0%	16.8%	14.7%	20.9%	30.9%	29.7%
無効・無回答	5.0%	4.8%	5.3%	3.5%	3.6%	3.6%	9.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
友人・知人	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	無効・無回答
良い・どちらかといえば良い	86.1%	89.2%	87.9%	87.2%	85.8%	80.0%	89.1%
悪い・どちらかといえば悪い	9.6%	6.0%	7.9%	10.6%	9.5%	16.4%	4.7%
無効・無回答	4.3%	4.8%	4.2%	2.2%	4.7%	3.6%	6.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 小学校から厳しい状況が続く子どものおよそ4人に1人が学校を居場所だと思っていない

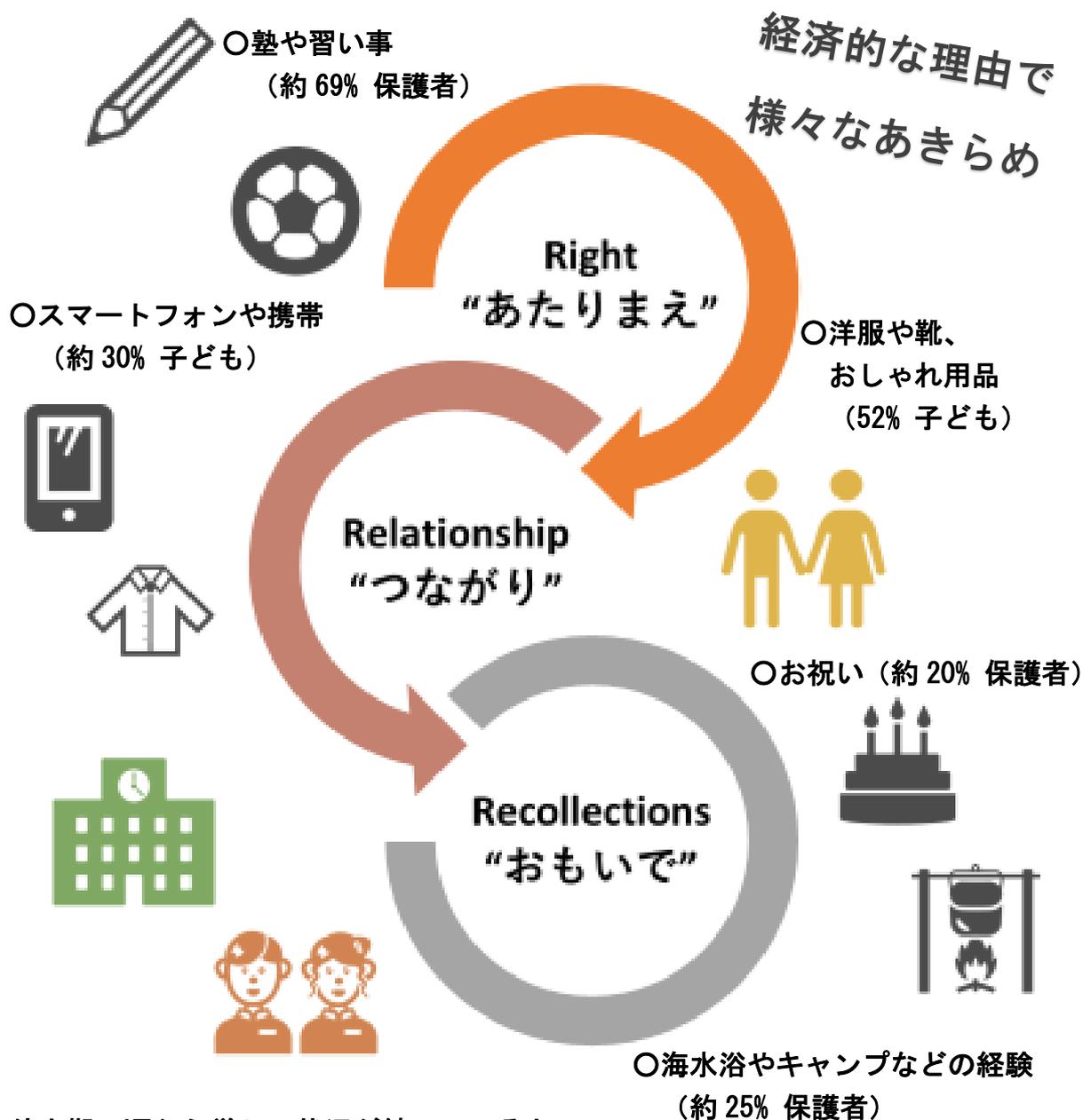
子どもの居場所と思う場所について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答の割合は、自分の部屋（約86%）、家庭（約87%）、学校（約78%）、職場（約36.4※）、地域（約76%）、インターネット空間（約54%）だった（職場について、アルバイト経験がある人は約55%だった）。「平成29年版子供・若者白書」と比較して、家庭（白書79.9%）、学校（白書49.2%）、職場（39.2%※）、地域（白書58.5%）が白書より高く、自分の部屋（白書89%）とインターネット空間（62.1%）が白書より低い結果となった。

学校について、「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた回答の割合は、乳幼児の頃からを除き、厳しい状況の時期が幼くなるに連れて高くなる傾向があり、小学校の頃から厳しい状況が続いている子どもはその割合が約24%だった。インターネット空間について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答の割合は、厳しい状況の時期が幼くなるに連れて高くなる傾向があった。

### （子ども）家庭や学校などを自分の居場所と思うか

自分の部屋	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	86.1%	88.9%	85.4%	85.4%	85.5%	84.6%	88.5%	90.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	11.0%	8.9%	12.3%	11.0%	11.6%	7.7%	9.4%	8.0%
無回答	2.9%	2.2%	2.3%	3.7%	2.9%	7.7%	2.1%	2.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家庭	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	87.4%	88.9%	90.0%	89.6%	88.4%	84.6%	89.6%	56.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	9.7%	8.9%	7.7%	7.9%	8.7%	15.4%	9.4%	34.0%
無回答	2.9%	2.2%	2.3%	2.4%	2.9%	0.0%	1.0%	10.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学校	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	77.5%	86.7%	84.6%	72.0%	82.6%	61.5%	77.1%	60.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	18.8%	11.1%	13.1%	24.4%	15.9%	30.8%	20.8%	28.0%
無回答	3.7%	2.2%	2.3%	3.7%	1.4%	7.7%	2.1%	12.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	36.4%	53.3%	37.7%	31.1%	37.7%	30.8%	43.8%	6.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	21.4%	26.7%	18.5%	25.0%	14.5%	30.8%	16.7%	44.0%
無効・無回答	42.2%	20.0%	43.8%	43.9%	47.8%	38.5%	39.6%	50.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地域	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	76.2%	82.2%	78.5%	79.9%	69.6%	69.2%	78.1%	38.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	15.5%	13.3%	9.2%	14.0%	23.2%	15.4%	16.7%	52.0%
無効・無回答	8.2%	4.4%	12.3%	6.1%	7.2%	15.4%	5.2%	10.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
インターネット空間	全体	高校生の頃から	中学生の頃から	小学生の頃から	乳幼児の頃から	生まれる前から	分からない	無効・無回答
そう思う・ どちらかといえばそう思う	54.3%	51.1%	52.3%	54.9%	55.1%	69.2%	57.3%	52.0%
そう思わない・ どちらかといえばそう思わない	35.8%	42.2%	35.4%	34.8%	39.1%	15.4%	37.5%	26.0%
無回答	9.9%	6.7%	12.3%	10.4%	5.8%	15.4%	5.2%	22.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

# 子どもたちにとっての、3つの“R”



幼少期の頃から厳しい状況が続いていると…

○様々なあきらめを積み重ねている

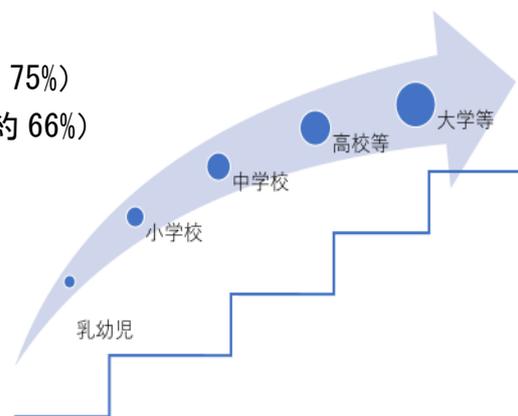
- ＜塾や習い事＞乳幼児の頃から厳しい (約75%)
- ＜洋服・靴など＞小学生の頃から厳しい (約66%)

○保護者と子どもの学校との関係 (悪い)

- ・小学生の頃から厳しい (約6%)
- 乳幼児の頃から厳しい (約10%)

○自分の居場所と思うか (そう思わない)

- ＜学校＞小学生の頃から厳しい (約24%)
- ＜地域＞乳幼児の頃から厳しい (約23%)



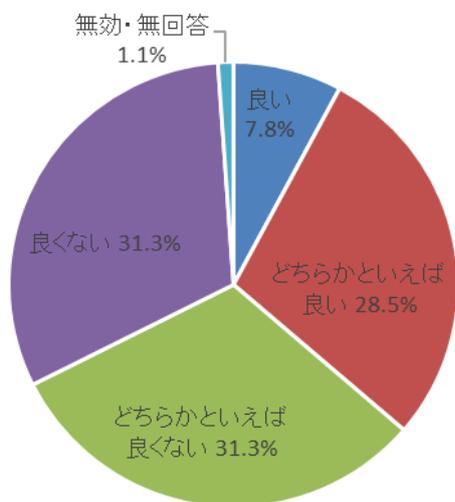
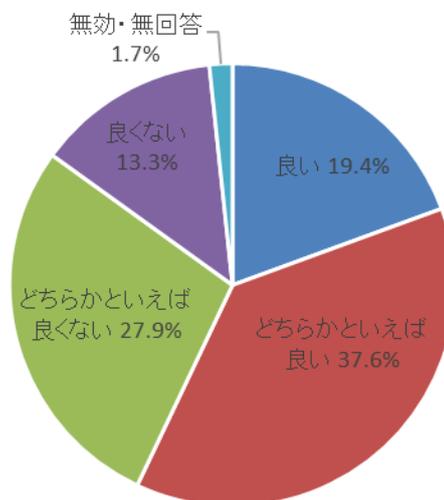
### (3) 保護者の健康状態

**約 41%は保護者の健康状態が良くない状態で、生活保護世帯は約 63%と全体より高い状態**

保護者の健康状態について、「良くない」と「どちらかといえば良くない」を合わせた回答の割合は約 41%だった。生活保護世帯のみで集計すると約 63%となり、全体と比較して約 22 ポイント高い結果となっている。

#### (保護者) 保護者の健康状態

項目	回答数	割合
良い	186	19.4%
どちらかといえば良い	361	37.6%
どちらかといえば良くない	268	27.9%
良くない	128	13.3%
無効・無回答	16	1.7%
総計	959	100.0%



#### (保護者) 保護者の健康状態<生活保護>

項目	回答数	割合
良い	14	7.8%
どちらかといえば良い	51	28.5%
どちらかといえば良くない	56	31.3%
良くない	56	31.3%
無効・無回答	2	1.1%
総計	179	100.0%

### (4) 生活保護世帯や性別でのあきらめた経験の割合比較

**生活保護世帯は進学・就職、部活動、海水浴やキャンプなどの体験などで差。男女にも差**

生活保護世帯の経済的な理由であきらめた経験について、保護者にうかがった 10 項目のうち、「教科書・参考書」と「病院への通院」を除く 8 項目は生活保護を利用していない世帯より高い結果となった。5 ポイント以上の差があったのは、①進学・就職（生保 18.2%、生保なし 9.7%、ポイント差 8.4）、②部活動（生保 19.4%、生保なし 13.5%、ポイント差 5.9）、③海水浴やキャンプなどの体験（生保 30.3%、生保なし 25.2%、ポイント差 5.1）だった。

また、子どもにうかがった経済的な理由であきらめた経験について性別で比較すると、17 項目のうち「朝ご飯を食べなかった」、「スマートフォンや携帯を持つのをがまんした」、「おこづかいやお年玉をもらえなかった」、「家計を助けるために進路を変更した、またはあきらめた」を除いた 13 項目は女性のあきらめ具合が高かった。4 ポイント以上の差があったのは、①洋服や靴、おしゃれ用品などをがまんした（男 48.9%、女 54.2%、ポイント差 5.3）、②学校でお弁当や昼食などではずかしい思いをした（男 3.1%、女 7.7%、ポイント差 4.7）だった。

## 4、制度の利用状況について

### (1) 就学援助の利用状況

**利用は約 65%にとどまり、利用なしのうち 78%は利用の仕方が分からない・制度を知らない**

保護者にうかがった制度の利用状況について、「利用中、利用したことがある」世帯は約 65%だった。利用がないと回答した世帯のうち、78%の世帯は「利用の仕方が分からなかった (16.6%)」、「支援制度自体を知らなかった (61.4%)」と回答した。

#### (保護者) 就学援助を利用したことがありますか

【就学援助】	回答数	割合
利用中、利用したことがある	627	65.4%
利用したいと思ったことがない	23	2.4%
利用したかったが、条件を満たしていなかった	23	2.4%
利用したかったが、使いづらかった	15	1.6%
利用の仕方が分からなかった	46	4.8%
支援制度自体を知らなかった	170	17.7%
無効回答	2	0.2%
無回答	53	5.5%
総計	959	100.0%

利用なし (n=277)	割合
利用したいと思ったことがない	8.3%
利用したかったが、条件を満たしていなかった	8.3%
利用したかったが、使いづらかった	5.4%
利用の仕方が分からなかった	16.6%
支援制度自体を知らなかった	61.4%



### (2) 高校生等奨学給付金の利用状況

**利用は 61%にとどまり、利用なしのうち約 64%は利用の仕方が分からない・制度を知らない**

給付金を受け取った子どもが高校生以上の保護者にうかがった制度の利用状況について、「利用中、利用したことがある」世帯は 61%だった。利用がないと回答した世帯のうち、約 64%の世帯は「利用の仕方が分からなかった (13.8%)」、「支援制度自体を知らなかった (50.0%)」と回答した。

#### (保護者) 高校生等奨学給付金を利用したことがありますか<高以上の世帯のみ>

【高校生等奨学給付金】	回答数	割合
利用中、利用したことがある	356	61.0%
利用したいと思ったことがない	16	2.7%
利用したかったが、条件を満たしていなかった	35	6.0%
利用したかったが、使いづらかった	12	2.1%
利用の仕方が分からなかった	24	4.1%
支援制度自体を知らなかった	87	14.9%
無効回答	1	0.2%
無回答	53	9.1%
総計	584	100.0%

利用なし (n=174)	割合
利用したいと思ったことがない	9.2%
利用したかったが、条件を満たしていなかった	20.1%
利用したかったが、使いづらかった	6.9%
利用の仕方が分からなかった	13.8%
支援制度自体を知らなかった	50.0%



## 5、特に改善や充実してほしい支援や制度

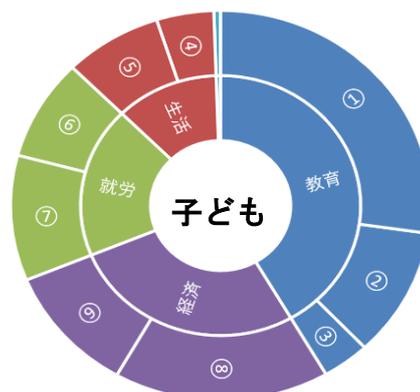
### 保護者と子どもともに教育費用の軽減や、安心して暮らせる経済的な支援へのニーズが高い

特に改善や充実してほしい支援や制度について、保護者・子どもともに教育支援と経済的支援が多かった。保護者は「①給付型奨学金や授業料免除など子どもにかかる教育や進学のコスト負担を減らしてほしい」(約80%)、「⑧安心して暮らすことのできる経済的な福祉制度が増えてほしい」(約66%)、「⑨支援の情報を分かりやすく届けてほしい、または手続きを簡単にしてほしい」(約59%)の順で割合が高かった。子どもは①(約76%)と⑧(約46%)の順番は同じで、3番目に高かった割合は「②無料の学習支援など勉強を教えてくれる支援が増えてほしい」(約30%)だった。  
(保護者)

法律	支援や制度で、特に改善や充実してほしいことはありますか (あてはまる番号すべて)	割合 (n=927)
教育	①給付型奨学金や授業料免除など子どもにかかる教育や進学のコスト負担を減らしてほしい	79.9%
	②無料の学習支援など子どもに勉強を教えてくれる支援が増えてほしい	51.0%
	③海水浴やキャンプなど様々な体験のできる支援が増えてほしい	18.2%
生活	④放課後や夜間に子どもの面倒をみってくれる場所が増えてほしい	17.7%
	⑤困ったときに気軽に相談できる相手や支援者が増えてほしい	32.0%
就労	⑥就労するときにサポートしてくれる支援が増えてほしい	27.2%
	⑦無理をせず安定して働くことのできる労働環境がほしい	47.1%
経済	⑧安心して暮らすことのできる経済的な福祉制度が増えてほしい	65.5%
	⑨支援の情報を分かりやすく届けてほしい、または手続きを簡単にしてほしい	58.7%
その他	⑩その他	2.6%

### (子ども)

法律	支援や制度で、特に改善や充実してほしいことはありますか (あてはまる番号すべて)	割合 (n=479)
教育	①給付型奨学金や授業料免除など教育や進学のコスト負担を減らしてほしい	76.2%
	②無料の学習支援など勉強を教えてくれる支援が増えてほしい	29.9%
	③海水浴やキャンプなど様々な体験のできる支援が増えてほしい	10.2%
生活	④放課後や夜間に子ども一人で行って過ごせる場所が増えてほしい	12.3%
	⑤困ったときに気軽に相談できる相手や支援者が増えてほしい	21.1%
就労	⑥就労するときにサポートしてくれる支援が増えてほしい	23.4%
	⑦無理をせず安定して働くことのできる労働環境がほしい	29.0%
経済	⑧安心して暮らすことのできる経済的な福祉制度が増えてほしい	46.3%
	⑨支援の情報を分かりやすく届けてほしい、または手続きを簡単にしてほしい	29.4%
その他	⑩その他	1.5%



## 給付金を受け取った子どもたちの声

給付金、ありがとうございます！  
自分は、野球部のマネージャーを勤めていました。  
けれど、母子家庭ということもあり、下には2人姉と弟がいることもあり、  
部活動をやめざるを得ない状況になりました。  
まじで辞めろか決めたのはいいのですが、  
辞めようと思、ていまあ。  
母子家庭で、こもは、辛くて、苦しくて。  
父親が、いい人だと、こもに、伝、え、て、初、め、と、気、が、ま、い、て、  
母は、毎日、死ぬまで働いて、朝もお昼のお弁当も夜ご飯も作、て、く、て、  
初、め、と、母、の、あ、り、が、い、い、が、分、か、り、ま、し、て、  
感謝するこもが、大、事、と、部、活、で、言、い、聞、か、し、ま、し、て、  
そのこもが、や、と、分、か、り、ま、し、た。  
こもが、家、庭、を、守、る、と、言、う、こも、は、な、ど、  
私も大、ト、に、お、ら、な、さ、な、さ、な、と、思、い、ま、し、て、  
給付金のおかげで、学校に入、ま、し、て、  
こも、も、感謝、し、て、い、ま、あ。  
そして、もし、部、活、動、を、せ、め、ら、家、族、の、こ、も、を、助、け、て、い、い、う、と、思、い、ま、あ。  
あ、と、母、が、あ、り、が、い、い、と、喜、ん、で、い、ま、し、た、！  
本当にありがとうございます！！

給付金のおかげで入学の準備の助けになりました。本当に助かりました。  
ありがとうございます！  
でも今、学費などで奨学金を借りているが、それでは少し不安がある。  
↓  
足りるか  
今でも奨学金をけいでは不足しているため、きちんと学費や他にかかる費用など  
4年間払えるか不安がある。

この給付金をもらったおかげで、進学に必要なパソコンを購入  
することができました。もし、この存在を知らなければならぬとします、  
本当にありがとうございます。

自転車、毎日使っています。ありがとうございます

## 給付金を受け取った子どもたちの声

高校生になると大体ほとんどの人はスマホを持っていて、私も買う事ができてとても嬉しかったです。私、家庭生活が厳しいので友達に言えない。知りたくもないので、こんな風に支援して下さる団体があることがとても心強く嬉しいです。本当にありがとうございます。  
毎日楽しい高校生活を送る事ができています。

僕は、今年の春卒業して、春にあすのば様から、大変大事な、入学・新生活応援金をもらい、そのお金で、運転免許取得のため、貯金をし、自動車学校の入学金に大切に使用させて頂きます。  
このような、入学・新生活応援給付金は、僕には、非常に役に立っていて、助かっています。  
僕のような身内がない人には、助かりました。

## 給付金を受け取った保護者たちの声

卒業、入学時には、思ってもいないお金が必要になるので、でき子向けこどもに普通にしてもらいたいと思います。なので、あすのばさんより支援して頂きとても感謝、うれしかったです。ありがとうございます。  
あすのばさんは、たまたま知れて申し込みも出来たのでしょうか？ほかにどんな支援があるのか、わからなかったの？みんなで支え合えるようになればいいなあと思います。

来年は、長女が中学校入学なので、制服や運動着、スクールバックなど...  
沢山のそろえる物があり、今からとても不安に感じています。

## 給付金を受け取った保護者たちの声

あゆみ引越すタイミングで父親からの給付金のことまで申し込  
ませてもらえました。自転車採業的な経済状況  
でしたので、おびく有難く精神的にやりがいでございました。  
給付金を頂くことで

おかげで毎時より体調が改善してきております。

ただ、もっと稼げるようにしたいです。そうは、た  
くにはぜひ思匠をさせていたいただきたいと思、いますので  
この制度をぜひ続けたいと思っています。

給付金を支給してくいただき、どうもありがとうございます。  
公立中学校であるにもかかわらず、制服が高額であるため、制服の購入  
には当てられませんでしたが、おかげさまで義務化されている部活  
の費用の一部（スパイク、ユニフォーム等の購入）に当てさせていた  
いただきました。現在、さいたま市内の公立中学校は、部活動への加入・参加  
が義務付けられているにもかかわらず、月々部費を払わなければ  
活動が続けられないです。

特に、バドミントン部（送料代が高い）野球部、剣道部（用具代  
が高い）など、課外活動であるにもかかわらず、かなり高額な活動  
費が必要です。そのため、親の収入が少ないと、入れる部も  
自分で制限されてきます。

市役所のケースワーカーに説明をしていただき、なかなか  
理解 賛成して頂けず、そのが残念です  
今日のお金は給付金 本当は助かりました有難うございました。

他にも多くの声をお預かりしました。ありがとうございます。

(保護者 599 通、子ども 236 通、合計 835 通)

0歳～19歳を子どもとして計算すると、全国で貧困の状況にある子どもたちは約300万人。今回のアンケートに協力してくれたような、この春に入学・新生活を迎える子どもたちは約60万人もいます。

アンケートの検討会には、あすのばに関わる学生世代の若者も多く関わってくれています。

**「かわいそうだからという理解をなくしたい。」**

先日の検討会の最後にある学生が話してくれました。アンケートを分析するなかで、子どもの貧困は「かわいそう」ではなく「あってはならない」社会の課題だということを改めて痛感しました。

中間報告では、主に貧軸（経済的な状況）と困軸（困りごとの状況）を中心に分析をすすめ、貧困は子どもたちにとっての「あたりまえ（Right）」、「つながり（Relationship）」、「おもいで（Recollections）」という3つの“R”を奪うリスクがあり、色んなことをあきらめながら大人の階段をのぼっていかねばいけない実態が見えてきました。

子どもたちにとって大切な「つながり」や「おもいで」を積み重ねるための「あたりまえ」が大人や社会で理解されないしんどさや、保護者も入学・新生活でかかると思っていなかった費用がかかる「ゴーストコスト（見えない費用）」や不透明な先行きに不安を募らせています。

厳しい状況が続く子どもほどあきらめを重ねている傾向や、生活保護世帯は進学・就職、部活動などであきらめ具合が高い傾向なども見えてきました。

**「厳しいなかを生き抜こうとする強さや、希望感も伝えたい。」**

そう話してくれた検討会メンバーもいました。力いっぱい自分の足で歩みをすすめようとする子どもたちや保護者たちに「自己責任」ではなく心からのエールを送り、子どもたちの「今」を支えることが明日や未来につながっていきます。

貧困を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、その背景に様々な社会的な要因があることを踏まえ、さらに社会的な取り組みとして対策をすすめていくことが必要不可欠です。

「子どもの貧困対策法」が貧困そのものをなくし、貧困状況にある約300万人の子どもをはじめ、今を生きる約2165万人すべての子どもたちとその家族にとって希望に感じられる法律に育っていくことを私たちは切に願っています。

2018年2月  
公益財団法人あすのば